

令和4年度 国立中央青少年交流の家

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

オリエンテーション合宿 (take the first step)

令和4年7月16日(土)・17日(日)・18日(月・祝) 0泊3日



○趣旨

地域が抱えている課題を自分ごととして捉え、その解決に向けた体験活動を通して、問題を発見する力と、それを解決していく力を養い、よりよい社会づくりに向けて自ら一步を踏み出し、歩み続けることのできる人材を育成する。

○参加者

高校生 40名

○事業の内容 11科目 22単位時間

(1) ガイダンス

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 藤原 章善



アイスブレイクによって仲間づくりを行った後、全国高校生体験活動顕彰制度とオリエンテーション合宿の説明を受けるとともに、探究的な学びを進めていく上での心構えを学んだ。

(2) 講話「地域づくりの実践」

加藤学園暁秀高校 小池りりい さん 駒走 旬星 さん

昨年度の地域探究プログラム全国ステージにおいて、文部科学大臣賞を受賞した高校生の講話を聴くことにより、よりよい地域づくりを実践していくための意欲を高めた。

(3) フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

- ・株式会社時之栖 阿山 恭弘 氏 (観光) ・有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏 (茶業)
- ・株式会社ノースゲイト 岡田 美幸 氏、社会福祉法人婦人の園 高橋 頼太 氏 (福祉)
- ・NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏 (放置竹林)

地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見するとともに、地域が抱えている課題について考察した。



(4) 講義・演習①「地域理解」

講義・演習②「課題解決の基礎」

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 藤原 章善

講義・演習①では、グループ協議においてフィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深めた。

講義・演習②では、フィールドワーク①において一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイデアによる仮説(解決策)を立て、グループ全員で共有した。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討し、理解を深めた。

(5) フィールドワーク②「地域課題の探究」

- ・株式会社時之栖 阿山 恭弘 氏 (観光) ・有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏 (茶業)
- ・株式会社ノースゲイト 岡田 美幸 氏、社会福祉法人婦人の園 高橋 頼太 氏 (福祉)
- ・NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏 (放置竹林)

講義・演習②で立てた一人一人の仮説をグループで検証するため、フィールドワーク先へのインタビュー等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動(解決策)を探ったりした。

(6) 講義・演習③「地域課題の探究」

発表①〔グループ発表〕

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 藤原 章善

講義・演習③では、フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索した。

発表①では、講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行った。その際、伝えたいことや構成を明確にするなどのプレゼンテーションの基礎についても学んだ。

(7) 講義・演習④「行動計画の基礎」

発表②〔個人発表〕

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 藤原 章善

講義・演習④では、オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成した。

発表②では、個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有した。



(8) 実践活動のためのガイダンス

国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 藤原 章善

実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解するとともに、実践活動や探究アワードなど今後の日程や手順について確認をした。



《事後アンケートより》

【『探究的な学び』に関する理解が深まった】 4段階評価で3以上 100%

- ・学校の授業等とは違う学びが沢山あって、とても良い経験になった。
- ・手法や手順を理解できた。
- ・地域の課題を一から考えることで理解が深まった。
- ・考え方やコツがわかった気がする。
- ・しっかりと課題設定をする必要性を理解できた。
- ・主体的に考え、深く学ぶことができた。

【「ぜひまた『探究』してみたい」と思えた】 4段階評価で3以上 100%

- ・今後もこうした思考プロセスを育みたい。
- ・自分の住んでいる地域で実践してみたいと思った。
- ・多くの人と関わり合うことができて良かった。報告書提出まで頑張りたい。
- ・知らないことを発見することは楽しかった。

《成果と課題》

- フィールドワークのコースを、観光・茶業・福祉・放置竹林と、分野が違う4つのコースから選択できるようにしたことで、参加者のニーズに合った地域課題の探究を実施することができた。
- 11校から40名と、多くの高校生が参加したことにより、講義・演習においては活発な意見交換がなされた。参加者は、同世代の仲間から刺激を受けるとともに、深い学びに繋げることができた。
- ともに学び合った参加者同士、そして地域づくりの実践家との間に繋がりを作ることができ、今後の活動に向けて協力し合える良い関係を築くことができた。
- 昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染症の感染防止のために、宿泊なしの0泊3日で開催した。来年度は、宿泊を前提に企画し、泊が伴うことの利点を効果的に活かせるようなプログラムを編成したい。